

令和5年度実施の文化推進事業助成対象事業 (令和4年度決定事業) の評価結果

【総合評価】

- 1 令和4年度に助成決定した「文化創造・発信事業4件」及び「文化団体活動3件」については、令和5年度中におおむね事業計画どおりに実施され、当初の事業目的を達成できたものと認められる。
- 2 文化創造・発信事業の事業者は、中央区文化推進事業助成審査会（以下「審査会」という。）が招集した中間報告会（令和5年7月開催）や最終評価報告会（令和6年3月開催）に出席し、実施状況等をつぶさに報告した。その際、審査会委員から出された専門的な助言については、その後の事業の運営や展開に意欲的に活用する姿勢を示していた。
- 3 文化創造・発信事業4件は、いずれも中央区らしさを有する地域に根ざした文化事業であり、中央区の新しい文化の創造や発展につながる事が期待できる内容である。
また、3件の文化団体活動は、地域に根づく芸術文化活動を長年にわたり展開・発信している団体である。
以上、どちらについても本助成制度を活用することで、区内文化の振興に貢献したものと認められる。
今後とも、これらの事業及び活動を継続し、さらなる発展を遂げるためには、区内の他の関係団体や文化事業者と連携を図るとともに、後継者の人材育成、活動財源の安定的確保などにも引き続き取り組んでいくことが必要である。

【各事業の成果】

- 1 文化創造・発信事業助成 4件

銀座たても新聞プロジェクト

「銀座は歩く建築ミュージアム」をテーマに「銀座たても新聞」を年間2号（10月号・11月号）制作し、「号外」として配布することができた。

また、発行にあわせて行われたゲストトークなどの連携イベントにも多くの参加があり、読者に刺激や建物の魅力などを提供できた。

「江戸で養蚕」P J区内小学生向け動画と体験で伝える養蚕・組紐の伝統工芸産業

伝統工芸である「養蚕・絹文化」を守り、継承するため、区内小学校で養蚕から組紐までの体験授業を継続的に実施し、それをコンテンツにまとめ、広く発信することができた。

養蚕・製糸・組紐の体験は、子どもたちにとっても、保護者など大人にとっても貴重な経験となり、「養蚕・絹文化」の継承につながる取組となった。なお、作成した動画（3本）は、YouTubeで配信している。

東京ビエンナーレ2023「日本橋エリアを『音』で紡ぐ」

日本橋及びその周境界隈が持つ、江戸・東京の風土、歴史、伝統、文化、人とのつながり等が醸し出す基層文化を顕在化させ「音の景色」創りに取り組んだ。さらに、その音色を通して、このエリアの時、場、人などの多彩なリンケージ（つながり）を紡ぎ、まちの更なる文化的な活性化に貢献している。

サウンドスケープ作品をウェブサイトで公開している。

～オペラってどんなもんじゃ！？～

ウィズコロナ新時代に即した生のオペラコンサートを企画し、区内で激減していた歌う機会、見る機会を提供することができた。

また、区民参加オペラが存在しない中央区で、区内在住・在勤・在学者限定で合唱団員を公募するなど、区内のプロ・アマチュアともに音楽を愛する者が集い、舞台を作り上げ披露する機会を提供することができた。

2 文化団体活動助成 3件

再会、そして次のステップへ －中央区第九記念合唱団の活動を通して－

「暮れの第九」発祥の地といわれている中央区で、その歴史を踏まえ、区民参加に

より歌舞伎座公演での初演再現を目指して平成19年に設立された団体である。その後毎年12月に、晴海トリトンスクエアで、区内在住・在勤者等による三世代参加型の合唱団として、無料公演を新型コロナウイルス流行前(令和元年)まで開催してきた。その後、新型コロナウイルス感染症の流行により合唱活動の自粛が求められてきたが、感染症対策を講じ、令和4年12月16日に会員主体の特別公演を実施し、活動再開契機とすることができた。また、自粛中も楽譜や音源を団員に提供し、活動継続への意欲の喚起に努めていた。

令和5年度は、令和5年12月10日にコロナ禍後初となる、有観客の公演を実施し、日頃の練習成果を発表することができた。

ふるさとの文化を育む「新富座こども歌舞伎」

江戸歌舞伎にゆかりの深い中央区ならではの取り組みである。地域の人たちの指導と企業の協力のもと、子どもたちが歌舞伎の稽古を重ね、地元神社の例大祭に合わせて公演を行っている。地域密着型の稽古と公演をとおして、古典芸能への関心を高めるとともに、こども歌舞伎をふるさとの伝統文化として根づかせ、継承していくことに努めている。

中央区交響楽団第29回定期演奏会・2023冬のコンサート

地域に根ざしたアマチュア・オーケストラとして区内の音楽ホールで定期的にコンサート等を開催している団体である。常に新たな団員を募集しながら、おおむね5月に定期演奏会、11月に冬のコンサートを開催してきている。演奏会では未就学児も入場可能とするほか、平成30年の冬のコンサートから入場料を負担のしやすい寄附制にするなど、次世代を含めた幅広い年齢層の方が気軽にクラシック音楽を楽しめる機会づくりに努めている。

【中央区文化推進事業助成審査会委員】

委員長 大西珠枝

委員 陣内秀信、四ノ原恒憲、鈴木順子、新治 満